

# TABLOID by G.B.Gafas



vol.8 Fashion and Eyewear life

Free



## もう一度、ファッションと眼鏡について考えてみよう。

1960年代のヨーロッパから始まった眼鏡のファッション化は世界へと広がり、その後、日本にどんな影響を与えたのか？今回はその事について考察してみたいと思います。眼鏡のファッション化が進んだとはいえ、1960～70年にアメリカから輸入されたアイビールックやヒッピースタイルに合わせた眼鏡を皆が享受したわけでもなく、お洒落な眼鏡を選ぼうという発想が一般的になってきたのは、80年代に入ってからではないかと考えています。当時はDCブランド百花繚乱の時代で、ライセンス契約によってアパレルブランドの名前を付けられた眼鏡がたくさん出回りました。この頃から、大手眼鏡店が台頭し、「TPOに合わせて眼鏡を選ぼう」というコピーが少しずつ

浸透し始めました。ビジネスシーンとプライベートで眼鏡をかけ替えるという考えは、その時の服装に合わせた眼鏡をコーディネートする事に通じており、これは的を射た着想と言えます。にも関わらず、似合う眼鏡の見つけ方として推奨されたのは、顔の形に合わせた眼鏡の選択方法で、四角顔には四角眼鏡、丸い顔には丸型の眼鏡を合わせる、あるいはその逆に顔型と違う形の眼鏡を選んでバランスを取るというものであり、現在もこの方法が根強く残っているのです。振り返ってみると、80年代はソフトなスクウェア調の大きな眼鏡が溢れ、90年代に入るとレンズの縦幅がぐっと浅くなったオーバル(楕円)型、そしてシャープなスクウェア型へと変わっていきました。眼鏡がファッションと不可分になった事で流行が生まれたのです。ここで疑問がでてきます。スクウェア型眼鏡の最盛期に店内がそれで埋め尽くされていた時、スクウェア型眼鏡が似合わない顔とされた方は、相応しい

眼鏡が見つからなかったのでしょうか。そんな事はないはず。当たり前のように言われていた、顔に合わせる眼鏡選びには欠陥があったのです。私たちは創業以来、眼鏡と服装のトータルバランスを重視した提案をしてきました。前述したように、顔の形状を基準にすると本当に似合う眼鏡とは出会えません。その人の個性を表現するツールである服装と眼鏡のデザインを揃える事が、最適な眼鏡選びの手段なのです。現在、ファッションはトラッド志向が強く、何気ない物をして自然にそんなテイストのアイテムが手に入ります。それとマッチするのは、やはりクラシカルな雰囲気眼鏡です。ちなみに、この傾向は世界的なものであり、クラシック系アイウェアのバリエーションも豊富になりました。その中から何を選べば良いか？それは、是非、スタッフに尋ねてみて下さい。